

2022年9月の総評に代えて

○林 桂○

● まちりこ ● (埼玉県 47歳)

東京の夜は出口が多すぎて
転生前夜に見た猫がいる

【評】この「出口」は、時空を越えて広がっているのだろう。東京の煩雑な街並みが抱えこんでしまった迷宮の出口。

● 豊富瑞歩 ● (茨城県 20歳)

人事課の見回りがない
書庫の天井に
カメラは設置されゆく

【評】書庫は逃げ場や隠れ家に利用されていたのだろう。折々、人事課による人海的な監視から、効率的な24時間の監視カメラに替えられてゆく。かくて書庫の逃げ場や隠れ家は消滅させられる。

● 氷丸 ● (茨城県 19歳)

直立の警察官が浮いている

【評】自由な身体の動きを封じて「直立」を保つ警察官は、警備か警護の仕事中である。動かないことが、仕事の表現である。そこは周囲と隔絶した存在感が漂う。それを「浮いている」と感じたのだろう。「憲兵の前で滑つて転んだやつた」(渡辺白泉)は、滑稽な転倒で、憲兵の動きの違和感を、茶化している。

● ヒラノユリア ● (神奈川県 53歳)

立葵の作った陰に
夏空をみて
最後の日に庭に集まる

【評】「最後の日に庭に集まる」集団が、何者かが分からぬ。その目的も見えてこない。謎めいた情景である。思えば私たちは、その服装や年齢で、大凡の当たりをつけて解釈しているだけで、本当は、この集団のように謎めいた集団を日々目撃しているのかもしれない。

● 杞いう子 ● (佐賀県 38歳)

大試験の問い合わせは命令形ばかり

【評】こういう視点で、試験問題を見ることはなかったが、確かにすべて命令形で、その命令に忠実に答えられる者が優秀とされている。こんな非主体的な行為は果たして本当に優秀な行為なのだろうか。作者は、そう問いたいのだろう。

●スズキセーホン●（千葉県 54歳）

マイナポイント
気にするな
お前はもう管理されている

【評】マイナンバーカードを取得すると、最大二万円相当のポイントが付与される。情報を集められ、管理されることを嫌って、なかなか進歩していない現状に、大きな予算を組んでいる。しかも、12月まで手続きは延期される。しかし、集められているかどうかは兎も角、現実には既に幾重にも情報管理された中に、私たちはいる。そう知るべきだと、作者は私たちを諭す。

●田崎森太●（東京都 71歳）

ロシナンテ少し休もう秋の雲

【評】ドン・キホーテ（あるいはドン・キホーテのような自分）が、愛馬ロシナンテ（あるいはそのような存在）に、かけた言葉が「ロシナンテ少し休もう」だろう。旅の中で、秋の雲を眺めながら、このような疲れを癒やす場面があってもいいはずである。

● こはくいろ ●（大阪府 17歳）

匿ってくれよ。
匂う夕陽のさみしさは、
ため息たちを包むつぼみだ

【評】二行目、三行目の甘やかな詩句。それでいて屈折が深い。一行目はもっと甘やかで甘えた口調だ。羨ましいほどの若書きの美しさを感じる。

● マズルカ ●（山口県 20歳）

転校の後にも友であることが
どれほど貴重か知らないひぐらし

【評】確かにどんなに別れを惜しんでも、転校生と何年も交流を持つのは希だろう。多くは、そのお別れの挨拶のままで終わっ

てしまうだろう。その中で「友」であり続けることは稀有だ。経験からの詩句か。

● 藤田 ゆきまち ● (三重県 47歳)

スーパーの百合根くすくす町の恋

【評】坪内稔典の句集の中に紛れ込んでいても不思議のない作品。「百合根」も「くすくす」も絶妙。

● 加藤 万結子 ● (愛知県 43歳)

犬も白髪になることを知った
お前も子育てをしてくれたよね

【評】白髪になって、愛犬が老犬となったことを知る。今までの日々も回想される。多忙な子育ての日々、幼い子どもの遊び相手となってくれたのを「子育てをしてくれたよね」と言っているのだろう。犬の晩年を感じながら、しみじもと湧く感謝の思い。

● 日下部 友奏 ● (群馬県 17歳)

褒められるのきらい

秋雨に打たれたい

【評】「褒められるのきらい」は、褒め言葉に某かの不純物を感知するからなのだろう。別に褒められなくてもかまわない。そのほうが生きやすい。そういうことなのだろう。「秋雨」は、褒めもくさしもしないで、全身を覆ってくれる。